

住宅紙上見学会

音楽で熟成した木材 赤貝の殻原料の漆喰

秋田ではまだ聞き慣れない商品をよく知ってもらおうと、北秋田市米内沢の見学用「体感ルーム」を公開している。

「音響熟成木材」の床材や柱材を用い、壁に「幻の漆喰」を施した。金森建築(社長69)は「部屋は暖まりやすくて熱が逃げにくい。しっかりとった感じがあるでしょう」とアピールする。

ドイツの作曲家・バッハの名曲を木材に聴かせる。そんな説明に「笑い出す人もいます」というが、金森社長は意に介さない。品質への自信は揺るがず「無駄に乾かないから木材に狂いが出ない」と胸を張る。

体感ルームの見学客から「落ち着く」など「幻の漆喰」も同社開発商品の一つ。主原料は有明海などの赤貝の殻。「焼いた殻の焼成カルシウムに、海藻を煮てつくる糊と無菌水を混ぜ合わせ生成」している。自然素材しか使わず「安全」を強調。「室内の化学物質を吸着、分解し住まいの空気をいつまでも清浄に保ちます」と説明している。和風、南欧風など壁材として幅広いデザインに活用ができることも特徴だ。

「体感ルーム」の特別なスギ材について説明する社長(左)と専務(右)。



「体感ルーム」の壁に施した「幻の漆喰」



米内沢に「体感ルーム」

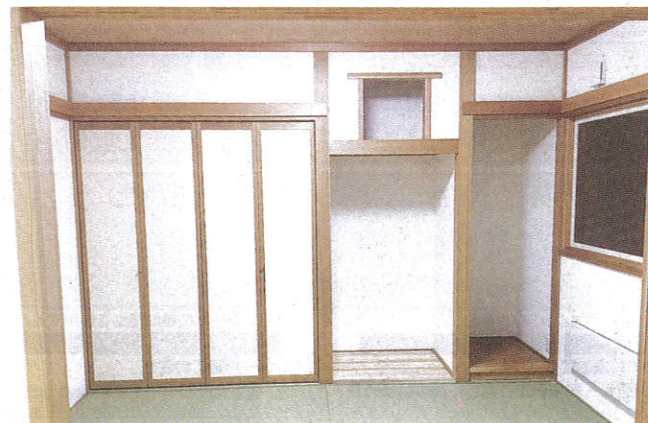
同社は金森社長が1973年に創業。2000年6月に有限会社化した。現在は長男の金森秀信専務と社員4人。

金森建築
北秋田市根田字家の前64
☎0186-78-2763

自然素材で健康に良い家



割れやゆがみが少ないという「音響熟成木材」(金森建築提供)



「幻の漆喰」を壁に施した住宅施行例(金森建築提供)

社長と新材の出合い

活用でき、手入れにワックスは不要という。強度アータもHPで紹介している。



「音響熟成木材」を使用した住宅(金森建築提供)。

九州産のスギを使用している。常温熟成庫の中にスギ材を並べ、クラシック音楽を聴かせている。「木にストレスを与えず熟成乾燥させる」手法によって「生きた木材に仕上がるとPR。機械乾燥や自然乾燥に比べ、防菌作用や保湿度、保温性が期待できるとしている。木材の風合いをそのまま生かして住宅

「住む人が健康な住宅づくり」をモットーに掲げる北秋田市根田の金森建築(金森勝三社長)。九州地方で開発された「音響熟成木材」や壁用建材「幻の漆喰」を積極的に活用し、新しい住宅の姿を提案している。



子どもたちの未来のために...



にご相談下さい。親身になってご説明いたします...

一棟、願いを込めて建てています...